

# 平成28年度の主要事業

## ＜地域医療構想の策定＞

平成28年7月、効率的かつ質の高い医療提供体制を構築するとともに、地域包括ケアシステムを構築することを通じて、地域における医療及び介護の総合的な確保を推進することを目的とした「岐阜県地域医療構想」を策定した。

地域医療構想の策定に向け、県内の関係団体等から幅広く意見を聴取するため、2次医療圏ごとに地域医療構想調整会議を設置し、病院関係者、県医師会、地域医師会、県歯科医師会、県薬剤師会、看護師、市町村、医療保険者、医療を受ける立場の代表者から幅広く選出された委員の方々に、地域の代表者として個々の利害にとらわれることなく、大所高所の立場から将来の地域のあるべき姿に向けた議論を1回（前年度4回）行ってもらった。

今後も、各関係者と連携を図りつつ、将来あるべき医療提供体制の実現に向け、事業を展開する。

## ＜食品の安全対策の推進＞

昨今の食を取り巻く問題として、放射性物質による食品の汚染、生食用牛肉や浅漬けを原因とするO157食中毒などがあり、消費者の食に関する不信や不安は依然解消されていない。

このような中、当地は県内有数の観光地であることから、食品事故による観光産業への影響を考慮する必要があり、より安全・安心な食品の供給を図るため、食品関係施設の監視指導及び試験検査等を実施した。

### 1 監視指導

「岐阜県食品衛生監視指導計画」に基づき、取り扱う食品の種類や営業の特性・規模等により危害度を分類し、特に危害レベルの高い施設、広域流通食品製造施設について重点的に監視指導を行った。

### 2 試験検査

- ・管内流通食品の放射性物質検査
- ・輸入食品の残留農薬検査
- ・食肉の残留物質モニタリング検査（抗生物質、ホルモン剤等）
- ・食品添加物、遺伝子組換え食品、アレルギー物質等の検査

### <感染症危機管理対策を主とする地域連携の推進>

毎年、夏期には腸管出血性大腸菌感染症が、冬期にはノロウイルス等による感染性胃腸炎が多発する。飛騨圏域では腸管出血性大腸菌感染症の発生が他の圏域に比べ突出して多い状況にある。これらの感染症は、免疫機能が不十分な乳幼児や高齢者を中心に流行が危惧されるため感染症対策の強化を図る。

また、新型インフルエンザ等発生時の医療体制等について、平常時からの関係機関との連携構築や訓練が重要とされており、連携強化に向け会議や訓練を実施する。

- 1 感染症発生動向把握体制の整備・推進
  - ・関係機関へ情報提供を行い、情報の共有を図る。
- 2 疫学調査の実施
- 3 関係機関を対象とした研修・訓練の実施
  - ・飛騨圏域新型インフルエンザ等発生時対応机上訓練
  - ・飛騨圏域新型インフルエンザ等対策連携会議及び訓練
  - ・高齢者の感染症予防研修会
  - ・感染症対策研修会（保育所等）
  - ・防護服着脱訓練
- 4 防疫備品物品の点検・整備の実施

### <ヘルスプランぎふ21>

ヘルスプランぎふ21は平成13年度に第1次計画が策定され、平成19年度に中間見直しを行い、平成20年度から平成24年度まで取り組んできた。その結果をもとに第2次計画が策定され、平成24年度には飛騨圏域の健康課題と取組方を整理した。第2次計画の4年度目となる今年度は、飛騨圏域健康づくり推進会議を開催し、圏域の健康づくり推進に向けた課題を確認するとともに、今後の対策と方向性について協議した。

- ・平成28年度飛騨圏域健康づくり推進会議 平成28年12月7日 出席者数 16人

#### [協議事項]

- ・飛騨圏域の健康課題について
- ・高山地区慢性腎臓病対策について
- ・各関係機関、関係団体の取組みについて

### <生活習慣病対策における医療、職域との連携推進>

ヘルスプランぎふ21の目標である「健康寿命の延伸」、「壮年期死亡の減少」を達成するため、圏域の医療機関や福祉、職域関係者、行政機関とともに、糖尿病等の重症化予防について目標を共有し、対策を検討し、ネットワークづくりに努めた。

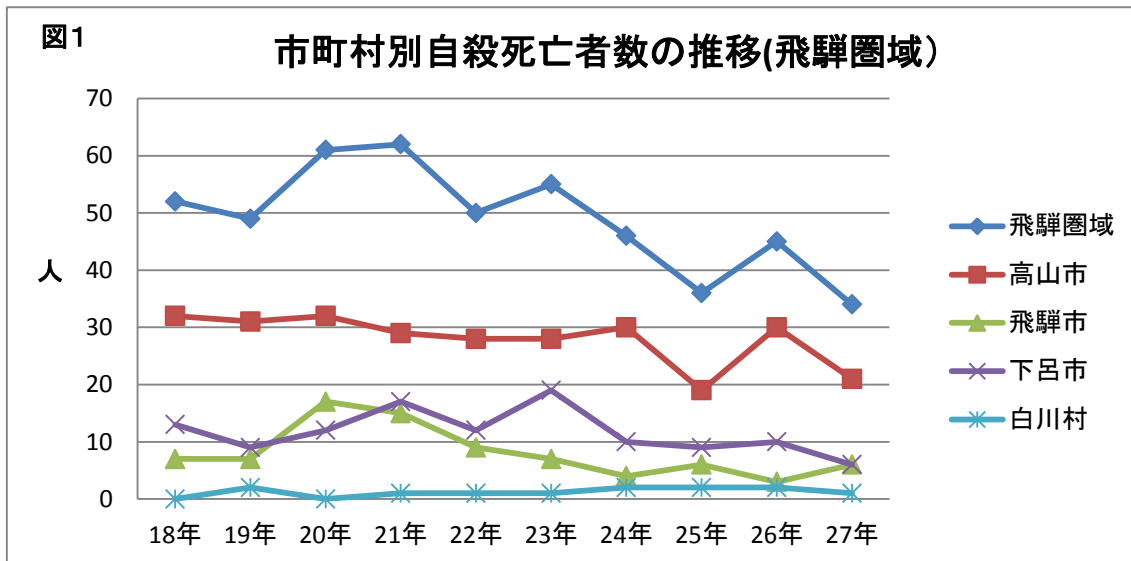
- 1 高山地域慢性腎臓病等対策検討会の開催 平成29年2月
- 2 下呂地域糖尿病等対策検討会の開催 平成29年1月26日

## <自殺総合対策行動事業>

### [現状と課題]

平成 26 年の全国の自殺者数は、25,427 人（警察庁自殺統計）と、前年と比べて減少したが、依然高い水準で推移している。このような状況に対処するため岐阜県では、自殺対策基本法及び自殺総合対策大綱をふまえ、平成 26 年 3 月「第 2 期岐阜県自殺総合対策行動計画」を策定した。

飛騨圏域の平成 27 年の自殺者数は 34 人（男性 22 人、女性 12 人）で、減少傾向にあるが、依然高い水準で推移している。（図 1）。



出典：人口動態統計

自殺者の多くが自殺行為に及ぶ前の段階で精神疾患、特にうつ病を発症している割合が高いと言われており、自殺予防対策として、うつ傾向の早期発見や早期対応についての健康支援に取り組んだ。

### [対応]

第 2 期岐阜県自殺総合対策行動計画を推進した。

#### 1 県民一人ひとりの気づきと見守りを促す啓発事業の実施

市村等と連携して地域住民等に対して講演会を開催し、心の健康づくりやうつ病に関する正しい知識を普及した。

・うつ病家族教室 参加人数 4 人

#### 2 早期対応の中心的役割を果たす人材（ゲートキーパー）の養成

職域や団体を対象として、自殺の現状やゲートキーパーの役割についての研修会を実施した。

開催回数 3 回 参加人数 約 158 人

#### 3 地域における心の健康づくり推進体制を充実

心の健康づくりに関する悩みや問題に対応する相談事業を実施した。

・精神保健福祉相談 相談者実 24 人 延べ 33 人（平成 28 年 4 月～12 月末現在）

・包括支援相談 相談者実 4 人 延べ 4 人（平成 28 年 4 月～12 月末現在）

#### 4 社会的な取り組みによる自殺予防の推進

生活・福祉・就労支援関係機関や相談支援機関に対して、知識の普及と相談窓口の周知を行った。

##### <女性健康支援センター事業>

女性がその健康状態に応じた的確に自己管理を行うことができるよう相談体制を整え、生涯を通じた女性の健康の保持増進を図ることを目的として女性健康支援センター事業を実施した。

特に思春期は身体が発達途上であると同時に心理的にも多感で動揺の激しい時期であり、身体的、精神的発達は将来の妊孕性も含めて極めて重要なため、管内関係機関において把握された思春期の健康課題について関係者が共有し、支援についての連携強化を図った。

- 1 相談対応：思春期から更年期に至る女性に関する相談を実施
- 2 関係機関と連携会議実施
  - ・妊産婦等支援連絡会議 平成28年8月2日
- 3 思いがけない妊娠を防ぐための健康教育「いのちの教育」を中学生対象に実施（性感染症及びエイズ予防講座と同時実施）

##### <難病患者訪問事業等>

難病患者（特に神経難病）を中心に、患者やその家族が抱える悩みについて、難病医療費助成の申請時や家庭訪問にて個別の相談指導、助言を行った。

また、神経難病患者、高齢者世帯では強い不安を抱えていることが多く、患者支援を行っている各関係機関との調整及び連携強化を図り、難病患者が安全で安心できる療養生活を送ることを目指し支援を行った。